

(特選)

☆鴨の陣一羽飛び立ち散りじりに

繁好

湖に沢山の鴨が集まって浮かんでいる。その中の一羽が何かに驚いて飛び立つと次から次へと飛び立ってゆく。飛んで行く鴨の集団の情景が目には浮かぶ。

・遠ざかる番の鴨や水脈残し

忠男

湖に浮かんでいる沢山の鴨、見ていると番の鴨がつかず離れず水脈を引いて遠ざかって行く。水脈の動きが良く見える。優れた客観写生の句

・知恵しぼる雑誌のクイズ堀炬燵

尤子

毎月とっている月刊誌を読んでいるとクイズの欄があった。堀炬燵に入ってクイズを解こうあれこれ考えている。寒い冬に炬燵の中で本を読むのは至福のひと時である。

(入選)

・老木の幹に藁束冬仕度

たか志

・白菜を積み破顔の八百屋かな

たか志

・束ね置く枯菊灰と匂ひけり

繁好

・泣き止まぬ稚にてこずる師走かな

良月

・餅二つ焼いて昼餉や妻の留守

進

(佳作)

・寒萬月山並み抱へ浮かびをり

かつを

・踏み石の足もとにふと水仙花

きよし

・蕪貫ひ煮物漬物思案顔

邦夫

・また一つ知恵の輪外す小春かな

進

・冬晴や初挑戦の手打ち蕎麦

けんじ

・白菜に藁の紐巻く畑かな

繁好

・軍隊の如く集ふや鴨の陣

邦夫

・夕食は白菜づくし農夫なり

かつを

・白菜を切る力を入れて背伸びして

一江

・白菜を干しゐる妻に昼日濃し

玄舟

・鴨飛来芦ノ湖越しの白き富士

けんじ

・白菜やちよつとゆるめの巻き加減

尤子

・若女将の笑顔も入れて鴨の鍋

進